

平成 19 年度事業報告

i. 概況

2007年(平成19年)度の日本経済は、堅調な外需により大手企業は比較的好調であったが、個人消費の伸びが鈍化し、景気としては全般的に弱いと言わざるを得ない状況であった。年度後半にはアメリカのサブプライムローンの影響を受けて、株価や原油価格、為替の急激な変動から、特に中小企業などでは収益への悪影響が大きく現れた。こうした景況下でジュエリー業界は、地金やダイヤモンドなどの調達に、為替や材料の価格変動の影響を受け、さらにプラチナ、金地金の高騰などから店頭価格を上げざるを得ない状況を生み、消費者の買い控えを誘う現象も見られた。また、アクセサリユーザーの増加、ブライダル人口の減少など業界への波は大変厳しいものとなった。

平成19年度のJJA事業は、消費者の信頼と安心を獲得することを目的に、「JJA信頼のマーク」制度を確立し、来年度の実施に向け準備を行った。特に最近社会問題となっている食品に於ける偽装事件等、消費者にとって大変関心の高い問題であることから、企業経営者それぞれの正しい倫理観に基づいて、販売者責任の徹底を図ることとした。一方では、公益法人制度改革を受け、公益法人化検討委員会を立ち上げ議論を重ねた結果、新制度下の公益法人は、社会的地位、信用の確保ができること、税制優遇が受けられること、行政の協力、支援が受けやすくなること、などからその方向に向かうことを決定した。また、来年度に協会創立20周年を迎えるために記念事業を計画立案した。従来から継続している事業については、概ね年初の計画とおりに遂行した。

加えて2007年9月14日には、新しいJJA会館が竣工し、10月2日より新しい本拠で事務局業務を開始した。新しく自前の土地建物を所有することになり、一般の消費者ならびに会員にとっても、JJAに対する信頼と安心がより強化され、様々なJJAの事業に貢献するものと思われる。

ii. 各事業

1. 調査広報関連

- (1) 年4回、会員に対してFAXによる定期業況調査を実施した。第27回(2007年4月～6月)8月発行、第28回(2007年7月～9月)11月発行、第29回(2007年10月～12月)2月発行、第30回(2008年1月～3月)現在調査中4月発行予定。
- (2) 経済産業省の商業統計をベースに2007年ジュエリー小売市場動向調査を実施。発行は4月予定。
- (3) JJAレポートは年4回、第67号～70号(4月発行予定)を企画、編集、発行した。
- (4) JJAホームページの和文ページの充実及び管理、ジュエリーコーディネーターページについてはJJAページデザインへの統合、英文ページでは会員検索を可能にした。なお管理を的確に行うため、ホームページ管理規程を制定した。

2. 国内関係機関との協力

- (1) 消費国として適切な情報開示及びガイドラインを発信するため、コランダム全体の規定について、JJA/AGL連絡協議会で協議を行い、改訂の作業に着手した。また、「規

定集」の全面改定を論議、「真珠の定義および命名法に関する規定」の改訂についての議論を行った。

- (2) 中央職業能力開発協会が実施する貴金属装身具製作技能検定(1級及び2級)は、JJA推薦の中央検定委員6名が、試験問題作成や円滑な実施に協力し、製作者の技能の向上に資した。同試験は平成19年6月から8月に学科及び実技試験が実施された。また、技能検定3級の新設の要望により検討の結果、厚生労働省に新設の要請書を提出した。
- (3) 2007年ユニバーサル技能五輪国際大会(主催:財団法人2007年ユニバーサル技能五輪国際大会日本組織委員会(中央職業能力開発協会:独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構))が、平成19年11月に静岡県で開催され、貴金属装身具製作は沼津市において17カ国の参加で11月15日から競技が行われた。一方、アビリンピックは静岡市において、7カ国の参加で同15日に競技が開催された。両競技会とも、JJAの推薦による委員が全面的に協力し、競技の円滑な運営を行った。
- (4) 中央職業能力開発協会の主催の技能五輪全国大会貴金属装身具職種が、平成20年2月29日~3月2日に東京都渋谷区のコミューニティーカレッジで開催された。競技運営はJJAが推薦した、運営委員1名、競技委員3名及び開発協会推薦の運営委員1名が当たった。
- (5) ISO/TC174(ジュエリー)の国際規格について、財団法人日本規格協会との請負契約に基づき、国際回答原案作成調査に関する業務を行った。照会件数7件、回答件数7件。

3. 国際交流関係

- (1) CIBJO関連では、ダイヤモンド、色石、真珠、貴金属のブルーブック制定に向けそれぞれの委員会が調整のため審議を継続中である。
- (2) 日本・インド貿易促進プロモーションが、2007年6月27日、ヒルトン東京においてインド宝飾品輸出振興協会(GJEPIC)とJJAにより開催された。コタリGJEPIC会長、今西JJA会長、加藤英高柏圭会長らのスピーチが行われ、JJA関係者、業界関係者、業界紙、大使館関係者ら多数が出席し盛況であった。
- (3) タイ・バンコクGEMOPOLIS代表表敬訪問を2008年1月24日IJT会場で受けた。日本の宝飾品業界のタイへの投資促進について話し合いが持たれた。
- (4) IIS2008Signature インド・ゴア視察代表団を2008年2月26日~3月5日にインド・ムンバイ、ゴアに派遣した。ムンバイ宝飾品工場視察、ムンバイ小売店見学に続き、ゴアにてIIS展示会を視察した。
- (5) IISゴア展示会への視察団派遣を受け、2008年8月開催予定のIIS2008ムンバイ展示会への出展要請があり、出展希望者を募ったところ多くの希望者があった。
- (6) 2007年2月にタイ業界団体と締結されたベリリウム処理コランダムの開示に関する合意をスリランカ業界団体とも締結し、同コランダムの生産輸出国での規制を補完するためJJAから合意書を送り、返書を待っている段階に進んだ。

4. ジュエリーの啓蒙

- (1) ジャパンジュエリーフェスティバル2007

①ジャパンジュエリーフェア2007

2007年8月29日(水)～8月31日(金)3日間、東京ビッグサイト東展示棟4～6ホールで行い451社(国内368社、海外83社)が出展、来場者は前年に比べ49%の伸びであった。JJAブースを設けJJA事業、役割などを展示パネルで紹介するとともにセミナー等を開催した。

②ジュエリーデーキャンペーン

イヤーカーラーは「オレンジ」とし、キャンペーン活動を行った。35点のイヤージュエリーをJJA会場に展示した。また、11月11日のジュエリーデーの認知を広めるため、「一般新聞・雑誌プレゼントパブリシティ企画」、「女性誌オリジナルジュエリープレゼント企画」の2つの企画を実施した。なお、これらのキャンペーン活動に対し、団体・賛助会員から協賛金が総計57万円あった。

③ジュエリーデザインアワード

応募部門は、第1部門パーティーシーン、第2部門カジュアルシーン、第3部門クラフト&ギフト、第4部門フリーマテリアル(新人部門)で、304作品の応募作品が集まり、59作品の入賞作品が選ばれた。

(2) 第19回国際宝飾展(IJT)

2008年1月23日(水)～1月26日(土)、東京ビッグサイト 東展示棟 1～6ホールで、第19回国際宝飾展が開催された。主催：リードエグジビションジャパン株式会社、社団法人日本ジュエリー協会、参加国36カ国、出展者数1,646社、来場者数37,812名、第19回ジュエリーベストドレッサー賞：堀北真希、加藤ローサ、中谷美紀、江角マキコ、風吹ジュン、阿木燿子、谷原章介、松坂大輔。

(3) 香港インターナショナルジュエリーショー参加

2008年3月4日(火)～3月8日(土)、香港コンベンションアンドエキシビションセンターにて、香港インターナショナルジュエリーショーが開催された。JJAパビリオンとして会員から9社(12小間)が出展した。主催：香港貿易発展局、出展者数2,300社(46カ国)、来場者数31,333名。バイイングミッションとして、新規バイヤーを対象に会員から14名が参加した。また、JJAジュエリーデザインアワード2007受賞作品9点を会場に展示、多くの来場者にPRすることができた。

5. 品位マーク関連

品位マーク事業の啓蒙と会員の増加を図るため、パンフレットを配布した。結果、新規会員の増加をみた。市場の製品の品位検査を2回実施した。品位において国内生産品はおおむね基準に合格しているが、海外製品に不合格品が散見された。表示者の製品の品位確認のため、品位検査を実施した。

6. PL関連

PL注意表示シール、PL共済事業等のPL対策により、事故の未然防止、損害賠償面で使命を果たした。

7. 技術関連

(1) 平成18年度技能検定学科問題の解説集を編集発行した。

(2) 平成19年1月11日に発刊したジュエリーの製作及び素材等を主題とした「ジュエリー

一用語事典（グリーンブック）」の校正を継続し、また販売を支援した。

(3) 技能検定の受検促進、技能五輪・技能グランプリの認知及び出場促進を目的に、J J F の会場 J J A コーナーにおいて来場者に啓蒙を行った。

(4) デザイン・企画分科会は、デザインや協会の展示会・アワードのアドバイス、及び海外展示会、ジャパンブランドの確立を目的として、活動を行なった。海外展示会の情報を収集し、今後の J J A 会員の出展やジャパンブランドの発信の方法を検討した。

8. ジュエリーコーディネーター

平成19年3月11日に東京、大阪に於いて実施した J C 3 級試験（第14回）は、受験者924名、合格者565名、合格率61.10%。平成19年8月23日に東京、名古屋、大阪、福岡に於いて実施した検定試験は、1級1次試験（受験者28名、合格者9名）、2級（受験者418名、合格者113名、合格率27.00%）、3級（受験者1,264名、合格者786名、合格率62.20%）。なお、1級2次試験は10月25日に実施、受験者13名、合格者4名であった。当期テキスト販売数は、2級テキスト625冊、3級テキスト3,536冊となった。学校法人産業能率大学に委託している通信講座は、327名が受講した。ジュエリーコーディネーター誌を発刊、第37号（6月）10,000部、第38号（10月）10,000部、第39号（12月）9,800部、第40号（3月）9,500部。更新講習会は、4月から6月に掛けて東京で3回、名古屋、大阪、福岡で行った、受講者566名、9月には名古屋を皮切りに大阪、岡山、福岡、札幌、仙台、東京2回、新潟、金沢で行なった、受講者370名。「J C の集い」を平成19年8月30日 J J F にて行った、参加者21名。資格制度創設10周年記念事業として、10周年記念特別号を8月25日に11,000部発刊。

9. 消費者関連事業

(1) 消費者相談窓口では、平成19年度延べ331件の相談を受け、消費者をはじめ業界事業者やマスコミなどからの質問の回答や問題解決にあたった。

(2) 消費者信頼委員会では、「J J A 信頼のマーク」制度発足に向け、本年度の最重要課題として取り組んだ。お客様が信頼できるジュエリー店を判断する為の目印となるマークなので、委員会でも活発且つ真剣に意見交換された。「JJA 信頼マーク」のロゴ・表示、制度加入資格、加入審査、年間登録料、入会者のメリット、認定店の責任、クレームに関する流れ、倫理審査委員会・メンバー等を順次決定している。又、アンケートを取り多くのメンバーに趣旨をご理解いただいた。次のステップとして、ワーキンググループ（入会審査WG・倫理審査委員会WG・入会募集WG・広報WG）を設置した。入会募集のツール他として、「J J A 信頼のマーク」入会のご案内、「J J A 信頼のマーク」制度のご案内、お客様用パンフレット、認定証を作成・印刷した。

(3) J J A の社会貢献運動として社団法人日本ユネスコ協会連盟の「世界寺子屋運動」に賛同する形でチャイルドピンズ運動を展開することを決定した。

10. その他

(1) 公益法人制度改革に向け公益法人化検討委員会を設置した。平成19年8月7日、10月15日、11月22日、12月13日、平成20年1月22日、2月6日、3月12日の7回会議を開催し、公益事業比率支出の50%以上の確認、モデル定款に基づく定款改定案を

立案した。

- (2) 20周年記念事業について、記念誌掲載内容に関しては、式典の様様、JJA 会館建設の記事、信頼マークの紹介、祝辞、寄稿、20年の年表などで構成した、記念式典は、上野精養軒で20年6月4日午後1時より2時まで行う予定、会長挨拶、各種表彰、来賓祝辞など、祝賀会は午後2時15分より4時15分まで、などを決定した。
- (3) JJA会館建設は、第2回寄付金募集を行い、第1回とあわせて58,665千円の寄付があった。会館に対する店舗総合保険および地震保険の契約を行った。9月14日にJJA会館ビル竣工式典および披露祝賀会を開催し、157名の出席があった。10月2日から新会館での業務を開始した。
- (4) 理事会の内容を要約して会員にFAX送信したほか、日本宝飾記者会との定例記者会議を9回開催し、理事会の内容報告を主に正確な情報公開に努めた。また第19回通常総会后、報告会を実施した。
- (5) 「犯罪による収益の移転防止に関する法律」への関係官庁、警察庁との連携では、会員、関係団体にポスター・リーフレットの配布の協力を行った。また、JJAホームページでは、広く一般向けに関係資料の配布（ダウンロードによる配布）を行った。